

大学図書館職員長期研修終る

大学における教育・研究活動の発展に伴い、大学図書館が、利用者の必要とする資料・情報を、迅速かつ適確に提供していくためには、図書館業務に関する最新の知識および技術を習得していくことが必要である。そのため、毎夏文部省の主催により、大学図書館における中堅職員を対象として、この研修が実施されているが、本年も7月19日より8月14日まで4週間にわたって開かれた。

本年の新しい試みとして、最初の5日間は赤城青年の家で合宿し、参加者による共同討議が行なわれた。第2週目からは、コンピュータ関係の見学や、参考業務の演習等の必要から、会場は炎暑の東京に移った。本学からは、附属図書館須原受入掛長、数理研坂東図書掛長、人文研山本図書掛長の3人が参加し、附属図書館岩猿事務部長は講師として参加した。

近畿地区大学図書館協議会企画委員会

〈とき：昭和46年9月10日 ところ：大阪大学中之島分館〉

本年秋以降に実施する各種の研究集会の実施計画をたてるため開催され、つぎのとおり決定した。①受入業務に関する研究集会 とき：10月26日（火）10.30～16.00 ところ：大阪大学松下会館 どのように資料を選ぶか、それをどのように合理的に受入するかについて、会計的な面も含めて、事例発表にもとづき討議していく。事例発表：国立大一大阪大、公立大一大阪市大。②図書館施設に関する研究集会 9月2日に、大阪大学吹田分館で第1回のこの研究集会を実施したが、その際の意見にもとづき、12月上旬に第2回目を開催する。③参考業務に関する研究集会来年1～3月の間に、できれば1回実施する。具体的なプランは未定。

第45次国立七大学附属図書館協議会

〈とき：昭和46年9月21日～23日 ところ：大阪大学待兼山会館〉

この会議は、日本における国立大学図書館関係の会議としては、もっとも古い歴史を持つもので、本年度第45回を大阪大学の当番で開催した。

初日21日は部課長会議で、文部省からの出席も得て、職員定員問題等が、事務レベルでまず討議された。京大提案議題のうち、学術雑誌総会目録の今後の刊行については、もはや手作業による編集は不可能で、電算機による目録の編集が強調された。また、同じく京大提案の教育課程文庫（教育学部保管）の問題については、七大学中、北大、東北大、九大、京大の4大学に設置された本文庫は、いずれも、その蔵書が大学の蔵書とされていないので、大学の蔵書にできるよう、至急に文部省内で検討を進めてもらうことになった。

22日から23日午前までが本会議で、7つの議題が討議された。ここでも、定員の問題が種々協議されたが、京大より提案された「学術情報流通体制の強化とNIST計画」の問題には、論議が集中した。国立75大学の蔵書数は3千万冊を越えるが、七大学を含むA級9大学で、約その半分を所蔵している。このことからみても、七大学に対する情報要求は、必然的に増大しつつあるが、これに対応する体制は、まことに不十分である。一方NIST計画の提案が科学技術会議よりなされているが、今後この計画はどのように実現されるのか、また、もっとも強力な情報源である七大学としては、どのように考えるべきかについて協議されたが、NISTの具体化がその後明確にされていないこともあって、結論には至らなかった。